

- 1 日時：令和5年8月28日（月）13:28～16:13
- 2 場所：アスティー45ビル 16階 大研修室1606

### 3 議題

#### ○報告事項

(1)「令和4年度農業・農村の動向等に関する年次報告」

- ・資料1により説明

【委員からの意見等】

- ・なし

(2)「第6期北海道農業・農村振興推進計画の中間点検」

- ・資料2により説明

【委員からの意見等】

- ・なし

(3)「北海道指定有害動植物総合防除計画の策定について」

- ・資料3-1～2により説明

【委員からの意見等】

- ・総合防除を推進する仕組みの構築とは、どのように構築するのか。
- ・指導・勧告・命令、遵守とは、誰が誰に対して指導・勧告・命令を行うのか。
- ・動植物とは、どういうものを動植物というのか。
- ・参考資料の27頁の飼料用とうもろこしのところにカラスの記載は、カラスが犯人という理解なのか。カラス以外もいるのではない。
- ・病虫害発生の子察事業だが、普及員が削減されている中で、これだけ環境が変わって、色々な災害が起き、これだけの子察事業をやって、生産者まで反映できるのか大変疑問。

#### ○意見聴取

(1)「食料・農業・農村基本法の見直しに関する中間取りまとめ」

- ・資料4-1～4により説明

【委員からの意見等】

- ・有機農業はもちろん大事、理想だと思いますが、今まで散々化学肥料に頼ってきて、ここから有機農業に変えるとか、農薬を減らす努力はかなりしているが、大規模でやっている農業者にとっては、切ない話だと実感しています。
- ・農地の集積・集約化はすごく大事だと思うが、農業委員会を通さない形で進められていると、集積や集約化はきちんと進んでいなと感じています。
- ・北海道は、1年1作ということで仕方がない一方、麦、大豆、子実用とうもろこしを拡大して行って、収入が減るのも困ります。
- ・近隣の酪農法人からの依頼で、土地条件の良くない圃場でデントコーンを作り、種まきと防除だけを行う形をとっている。そういう農家の状況を整え、小麦などの拡大につながればと思います。
- ・新しい技術の利点はよく分かるが、ドローンやスマート技術のトラクタを導入しても、結局、生産価格が上がらないようでは困る。農業をやっている良かった、夢のある職業だと思えるような農業政策にしてもらえたらと思います。
- ・水田活用について、畑に水を張る効果は十分理解しているが、矛盾を感じる。わざわざ、お金をかけて畦畔を造成し直してまで、水を溜めている方を目の当たりにすると、納得のいかない気持ちになります。
- ・多様な人材の受け入れは、グリーンツーリズムを進めようと思っても、市街化調整区域だから利用できない、お店を出すことができないなど、開発許可がおりない、そのあたりの改善が必要です。

- ・飼料の増産に取り組む一方で、乳価や乳量を引き下げるとするのは、逆行していると思う。北海道以外では生乳が足りないという現状の中、減産するのは問題と思います。
- ・農業法人の育成について、複数戸法人が、地域の土地の受け皿とり、新規就農者の受け入れを行い、土地を貸や機械を貸してあげるとか、地域において、農業法人を使ってもらえれば、新規就農者も増やせると思います。
- ・農業法人に勤めるという形であっても、農業者人口の増加に貢献できると思う。
- ・農業・最近牛舎の搾乳ロボット化に伴い、少ない人数でたくさんの牛を飼育できる牛舎が急増、大型化に伴い牛乳が飽和状態になり牛乳の生産調整が入ることとなった。道や国が保証しなければならないと思います。
- ・日本だけでなく海外へ輸出の販路の拡大が必要です。牛乳が足りないからといって、大型化に補助を出して、今度は余るから生産調整するのではなく、計画的に進めてもらいたい。
- ・北海道は豊かな食料基地ですが、近年の温暖化に伴い農作物の被害も多く出ています。今後は温暖化対策も必要です。
- ・牛などの飼育頭数が増えると糞尿も問題です。鹿追のバイオガスプラントを見学してきたが、環境問題の観点から、今後増える糞尿に対し処理施設も、温室効果ガス排出削減策として良い取組だと思えます。
- ・食料について、東京電力の原発処理水がアルプス処理水を海洋放出しました。私たち消費者は浄化設備が除去できないトリチウムが含まれた状態で放出されるのは安全安心の観点から目に見えないためとても不安。北海道の作物に対しても今後風評被害の影響が出ないことを願っています。
- ・北海道の農業を考えた基本法の改正になればと思っています。北海道の農業を盛り込んでいけるかが大事。
- ・北海道観光に来る方が増えている。これだけ北海道に行きたいというファンがいるので、旅行に来た方に北海道の農業がもっと魅力的なものとして伝わって、購入したいという気持ちにもつながる。ツーリズム的なことも必要。
- ・有機農業について、環境の面から考えると必要だが、生産しやすい環境を整える必要があります。
- ・食料安全保障ですが、一般国民から見ると、アクセス面の保証とか、安定性の保証というのはわかりにくく、この食料安全保障の全体像がわからない。
- ・食料の安定供給に関して、適正な輸入量というのは、どういうふうにとらえていけばいいのか。
- ・小麦や大豆、飼料などを置き換えは、何をどのくらい作ると食料安全保障が達成されたと考えていいのか。
- ・農業の担い手の問題について、本当に生産者を増やしたいと熱意を持っているのか疑問であり、本当に農業者になりたい人に対するバリアーがないのか。
- ・基本法の見直しの第1の柱が食料安全保障の強化で、麦、大豆、飼料作物の生産性を拡大するとあり、北海道農業が果たす役割は相当大きい。北海道農業の持続的な発展、これが大前提である。
- ・少子化の問題、農村地域の高齢化、人口減少など、今まで以上に進展していくことが想定されている中で、今の農地を引き継いでいける人材の確保が不可欠ではないか。
- ・新規就農も含めて、将来の人材の育成・確保を強力に進めていくことが大事である。
- ・地域計画、人・農地プランですが、これの策定の徹底、農地の受け皿となる経営体が農地を引き受けやすくなるような施策の充実が必要ではないか。
- ・農地を引き継いだ担い手が、意欲、希望を持って営農に取り組んでいけるよう、計画的な生産基盤の整備により、スマート農業を最大限発揮できる優良農地を

確保していく。併せて、特に専門的な農業者への経営安定対策の一層の充実が必要ではないか。

- ・生産性の向上だけではなく、防災、減災対策、あるいは温室効果ガスの削減など、環境対策の観点からも事業制度の充実も必要ではないか。
- ・食料の安全保障と経済の安全保障、これが同時に求められている。その上で、現在の国際情勢に合わせた日本の食料供給基地となる北海道の農業、こちらも国民生活の安定および、国民経済の健全な発展、これを支えられるものにする必要と思っています。
- ・若い世代が農業に興味を持っていただくような環境づくりが1番だと思っています。
- ・北海道の農業が労働集約型から資本集約型に行動変容できるような目線も必要だと思っています。そういった経営視線を持った人材の確保とその手段の拡充が必要。
- ・10年先、20年先の未来を見据えた将来の投資、こういったもので、北海道農業・農村の振興に強靱性を与えられるような政策に是非していただきたい。
- ・消費者の食料環境に対する知識の向上と行動変容、いわゆる食料リテラシーの向上、国際感覚やSDGsに対する意識など、しっかりと今まで以上に踏み込んだ取組に資するような条項も必要ではないか。
- ・将来に展望を持って安心して生産していける現場をどう応援していくか、日常生活に必要な食品が安心して安く良い物が気軽に手に入るようにしたい。
- ・農業の基本政策の中で生産基盤の推進、それから輸入の多い小麦、大豆、飼料などの増産もあるので、基盤整備や施設整備については、食料安保という中で別枠でも、負担軽減できるような予算措置、制度改正が前に進むよう北海道にもお願いしたい。
- ・生産目標が長期間にわたって安定した数字であれば、自分の経営を考えた時に、かなり見通しが立てやすいのではないか。
- ・現場のことを、行政が一緒になって汗をかくのは当然のことだと思いますけれども、我々以上に汗をかいていただける相談相手として、北海道だと思っています。ぜひそういった相談体制につきましても、今まで以上に一緒になって悩んでいただけることを強くお願いします。
- ・北海道は専門経営体の割合は高く、スマート農業技術の活用は不可欠であり、着実な増加も見られます。今後も、より一層の推進をお願いしたい。
- ・スマート農業技術の導入に関しては、コストが高く、経営を圧迫するので、支援施策も同時に進めていただけますようお願いしたい。
- ・新規就農者に対しては、研修体制の充実に加えて、住宅も含めた生活環境の整備もあるとよいと考えます。
- ・北海道農業は専門農家がほとんどで、規模が大きい、都府県が生産量を減らす中で、北海道農業のシェアが年々じわじわと高まってきている。残った農家が規模拡大して生産性を高めて努力を続けている。食料自給率が低下傾向にある中で、歯止めをかける役割を果たしているのが北海道農業です。
- ・北海道の農業は、道民にとってだけではなく、国民的に見ても、生命の維持に直結する食料を満たす貴重な資産ではないかと思っています。
- ・生産者も今回の検証で、農産物価格と所得に関心が向く、経営の安定性が極めて重要なのだと感じ、中間取りまとめで価格の形成に関して、今後、こうした適正な価格形成のための施策というものが、市場メカニズムによる価格形成と適正な価格形成にどう折り合いをつけるかに関して目が離せないと思いました。
- ・経営の安定があつてこそ、食料の安全保障が達成されるということなのだと思います。その経営が生産調整だ、乳を搾るなどになると、かなり不安定になってくる。一方で、今度は有機農業で行きましようということで、頑張らなきゃいけな

い。いろんなことが起こってくる。

- 基本は主業農家がいる、そこがしっかりしなければ副業農家の活躍もできないし関係人口の創出も生まれてこない。土台がはっきりしなければそこからは就業の機会も生まれてこないということだと思います。
- 長期的な展望、おそらく今後20年間先という展望がない中で、何か対策をしようとしてもなかなか若い人も入ってこない。せめて20年間の展望をしっかり示すことが必要だと思いました。
- 食べ物はすべての根源なので、関わってくるとは思いますが、縦割りだからできないなど、数字だけを見るのではなく、この北海道で生きて良かった、また、生産して良かったというような考え方を持って、政策、法律の改正等を進めていただければと思いました。

以上